

校長室より

## 「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鶴飼敦之

## 凡事徹底「時を守り、場を清め、礼を正す」

本年度も始まりました。全学年の登校初日(10日)、今年も“おはようカウンター”を手に玄関前で登校してくる生徒たちに朝の挨拶の声掛けをしました。今年も凡事徹底を心掛けていきましょう。

4月の在籍人数は752名でスタートです。誰一人欠けることなく、3月を迎えてくれることを願っています。

1年生は、まだ電車通学も不慣れなためか、早目の登校です。8時前には2階の1年生プロアールもかなりの生徒が教室に入っていました。

2年生は早速クラスメートと意気投合、カメラを向けるとVサインで仲良しのお友達とキメのポーズ。

3年生。夢の実現に向けて二松学舎での最後の一年を大切にそして楽しく過ごしてください。



## 始業式挨拶 「努力と挑戦」

日本ではこの季節に多くの草や木が生長を始めます。私たちも新しい学年のスタートを迎えることになりました。皆さんはスタートにあたり新たな目標を立て、目標達成のための具体的な手立てを考えていますか。

今、最も注目されている日本人の一人に大谷翔平さんがいます。彼が高校生のときに将来の夢・目標を達成するための道筋を自分で設定したことは有名です。大きな目標に対してそれを達成するために必要となる小さな項目を設定しロードマップを作成することで目標がより細分化され、具体化・視覚化でき、それらを一つずつクリアすることで夢の実現に近づけていくことが可能になるのでしょうか。皆さんも自らの目標設定について、考えてみてください。

さて、年度初めの日、今日は、「努力と挑戦」をテーマに話をしたいと思います。

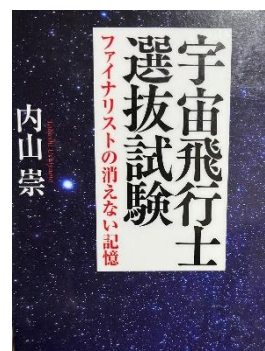
2月末に14年ぶりに宇宙飛行士の選抜試験が行われたとのニュースがありました。宇宙への憧れを抱く人は少なくないと思います。ちょっと飛躍しますが、「銀河鉄道999」の哲郎やメーテルに共感する人もいるかもしれません。「宇宙兄弟」のアニメに夢やロマンを感じ、冒険心をかきたれた人もいることでしょう。実際に我々が宇宙に出かけることができる日もそう遠くないかもしれませんね。

さて、「国内最難関」ともいわれる宇宙飛行士の選抜試験は、4,127人が応募し、書類選考で約半数がふるい落とされ、続く4次にわたる試験で男女の二人が宇宙飛行士の候補に選ばれました。選ばれた女性の米田あゆさんは、外科医で最年少タイ記録の28歳、女性の合格は24年ぶり、男性の諏訪理さんは最年長で46歳の合格。前回に続いて2度目のチャレンジで合格を勝ち取ったとのこと。

この諏訪さんと一緒に前回の選抜試験にチャレンジした受験者の中に内田崇さんという方がいます。最終選考の10人にまで選ばれたのですが、宇宙飛行士にはなれませんでした。内田さんは全身全霊を傾けて挑んだ選抜試験への挑戦とその後の葛藤について『宇宙飛行士選抜試験 ファイナリストの消えない記憶』という手記にまとめています。内田さんは「試験には失敗だったけれど、そこから学んだことがとても多く、また新たな自分の目標が生まれた」と語っています。

宇宙飛行士選抜試験の話に深入りしてしまいましたが、今回のテーマは努力と挑戦でしたね。

皆さんに宇宙飛行士を目指そうと言っているのではありません。目指して欲しいのは「必死になって物事に取り組み、努力すること」です。高校の勉強はより専門的になって勉強する意味が見出せなくなることもあるかもしれません。でもそれは、皆さんが新しい世界、新しい自分に出会うためのきっかけになることなのです。ぜひ、本気で挑んで欲しいと思います。自分の夢や目標を目指して努力し、いい結果になればもちろん喜ばしいことですし、たとえ失敗してもその経験は大きな価値があるでしょう。失敗を恐れずに挑戦してください。ただし100%で。本気の失敗には価値がある。あなた達にはきっと出来ると思います。



## 新たな 262 人の仲間 入学式 in 日本教育会館

以下は、「式辞」の一部抜粋です。全文は後日、「二松だより」にてお届けします。

262 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの二松学舎大学附属高等学校への入学を教職員を代表して心から歓迎します。皆さんはコロナ禍において、様々な制約がある中で多くの困難を乗り越え、二松学舎大学附属高等学校の生徒として、夢と希望に満ち溢れた高校生活の第一歩を踏み出しました。本校での学びを通して、充実した3年間を送ってくださることを期待しています。

入学は、それ自体が目的ではなく、次のステージに向けて努力を始めるための出発点です。高校生活の三年間は、長い人生の中にあって、ほんのわずかな時間にしか過ぎません。しかし、これからの人生の生き方を考える上で、とても大切な時期です。本校は「仁愛」「正義」「弘毅」「誠実」の四つの校訓のもと、「心を育て、学力を伸ばす」指導を理念とした教育を進めています。皆さんには、これからの社会で活躍するため、これらの力を育み、羽ばたくための大きな「翼」を身に付ける「学び」を始めて欲しいと思います。

皆さんがその翼で、悠々と飛翔する 10 年後、20 年後の社会は、ますますグローバル化が進み、皆さんの活躍の場面は世界に広がります。異なる文化や価値観をもった人々との関りは当然のこととなります。幅広い教養と深い専門性、公共性や倫理観に基づいて自分の主張を正しく伝え、主体的に考え判断して、異なる意見も受け入れる柔軟性をもって、共に課題を解決することが求められる社会になっています。

本校での三年間は皆さん一人一人が自分らしい、自分にしかない大きな「翼」を育む大切な時期です。その「翼」は皆さんの将来の可能性や、夢や希望の幅を大きく広げてくれるでしょう。

そこで、大きな「翼」を育むために取り組んでほしい三つのことを要望します。

- 第一は、「授業での学びを深めること」、
- 第二は、「特別活動に参加し自らを磨くこと」、
- 第三は、「凡事徹底を図ること」

皆さんには、日々の授業、学校行事そして部活動や委員会活動などの三兎を全力で追い求める中で、様々な体験をし、友人と互いに学び合ってくれることを期待しています。そして、常に自分自身の大きな「翼」でどこを目指して飛んでいきたいのか、しっかりした将来の目標を掲げてください。

保護者の皆さま、この三年間でお子様は大きく成長します。皆さまの手を離れ自分の足で立っていきこうと奮闘します。そうしたお子様の著しい変化に戸惑うことも多いはずですが、こうした時期にこそ、お子様の自立を心から喜び、支えてください。一人で挑戦させ、時には小さな失敗を経験させ、そこから何かを学ばせ、自立した人間への階段を登らせてください。

「子育ての四訓」という教えを紹介します。そこには、

- 「乳児はしっかり肌を離すな」
- 「幼児は肌を離しても手を離すな」
- 「少年は手を離しても目を離すな」

「青年は目を離しても心を離すな」とあります。これからは心を離すことなく、お子様が自ら選んだ道を歩もうとする後姿をしっかりと応援し続けてください。我が子を信じて上手に子離れすれば、お子様もしっかり親離れでき、自立していきます。

